

報告書抄録

ふりがな	やまだでらはくつちようさほうこく							
書名	山田寺発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	奈良文化財研究所学報							
シリーズ番号	第63冊							
編著者名	毛利光俊彦・田辺征夫・黒崎直・寺崎保広・小野健吉・島田敏男・藤田盟児・千田剛道・佐川正敏・花谷浩伊藤敬太郎・伊藤武・深澤芳樹・上原真人・岩永省三・大脇潔・松村恵司・長尾充・箱崎和久・村上隆							
編集機関	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所							
所在地	〒630-8577 奈良県奈良市二条町2丁目9-1 TEL 0742-34-3931							
発行年月日	西暦 2002年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
やまだでら 山田寺	なら 奈良県桜井市 やまだ 山田	292061	—	34度 40分 53秒	135度 50分 12秒	1976.4.28) 1996.12.16	約10,500m ²	史跡整備に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
山田寺	寺院	飛鳥時代) 平安時代	金堂、塔、回廊、講堂、宝蔵、南門、大垣、参道、水路、橋、灯籠、礼拝石、幢幡遺構など。	木簡(15点)、銅板仏、押出仏、埴仏、軒瓦(約7,000点)、文字瓦(約750点)、鬼瓦、鴟尾、丸・平瓦(多量)、施釉陶器、青・白磁、製塩土器、硯、土馬、土師器・須恵器(多量)、木製品・(漆塗り仏具ほか)、獣骨、金属製品(厨子金具ほか)、銭貨(26点)、ガラス容器、石製品、鑄造関係品、建築部材(多量)、建築石材・壁土など。		<ul style="list-style-type: none"> 『帝説』裏書や遺構、遺物の検討によって、7世紀中頃に金堂、回廊、中門それに四周の大垣や門があったと判明。 塔、講堂、宝蔵は7世紀後半に造営され、大垣や南門も改作される。三面僧房の形成もこの時期と推定 8世紀中頃には東北部に一院を新設 11世紀前半に回廊が倒壊し、12世紀末頃に金堂、塔、講堂が焼亡して古代山田寺は廃絶。 		
		鎌倉時代) 室町時代	区画溝、井戸など	軒瓦、鬼瓦ほか		出土瓦や一部の遺構から、遅くとも13世紀中頃までに、山田寺が再興されたと推測。		
山田寺下層	居館 旧山田道	7世紀前半	掘立柱塀、溝 両側溝	土器 木簡(49点)		山田寺の地には、願主である蘇我倉山田石川麻呂かその一族の邸宅跡があったと推測。その南限塀の南にある2条の溝を古い山田道と考定。		